

講義 8 指定管理捕獲等事業の実例紹介（Ⅱ）丹沢大山国定公園の山岳域

神奈川県然環境保全センター野生生物課 谷川潔

- 1 自然環境保全センターによる丹沢大山国定公園の山岳域におけるシカ捕獲について
神奈川県でのシカ捕獲数は、第3次シカ管理計画開始（2012年）以降、さらに捕獲強化を行い毎年度2000頭以上の捕獲が行われている。

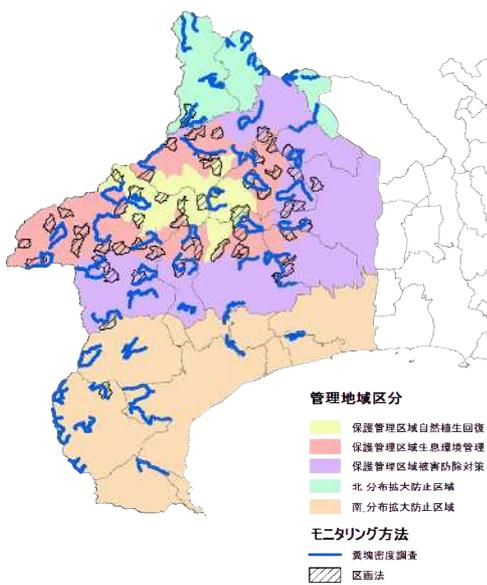
このうち自然環境保全センターでは、狩猟や有害捕獲が行われてこなかった丹沢大山の中高標高域において「自然植生回復・生息環境の基盤づくりを目的としたシカ管理捕獲」を実施しており、県猟友会とワイルドライフゾナーの捕獲を合計し、600頭レベルに捕獲を増やしてきている。

丹沢大山のような山岳地で、「県猟友会による中標高域での巻き狩りと、高標高域でのレンジャーによる忍び猟を組み合わせる」実施することにより、これまで捕獲空白域と言われていた丹沢大山の山岳域でのシカ捕獲が進んでいる。

この取組みの結果として、2に示すように、「丹沢大山でのシカ生息数の減少傾向が明確に」なってきており、この取組みを継続しながら、技術的・計画的なシカ捕獲の精度をより向上させていきたいと考えている。

- 2 シカの推定個体数の推移について（丹沢大山の保護管理区域での推計）

自然環境保全センターではシカ捕獲強化に並行して、場所ごとの生息数を区画を区切って目視カウントする区画法、シカの糞を計測する糞塊法、下層植生の生育状況を調査する植生調査などの基礎データを、左図のような箇所、全国の他地域に比べても綿密に収集してきた。



環境省により導入された「階層ベイズモデル」によりこうしたこれまでに得られた基礎データを活用して推計検討を行っている。

「階層ベイズモデル」では、得られた新たなデータによる推計を重ねていくことで、より予測精度が向上するため、毎年度シカ生息数推計を行い、以下のように、より明確な生息数の減少傾向が確認できてきている。

